

# 審議会等の会議結果報告書

課所名	教育総務課
-----	-------

会議名	第4回第二次諏訪市教育振興基本計画策定委員会
開催日時	令和5年2月16日(木) 午後6時00分 ~ 7時20分
開催場所	諏訪市役所 201会議室
出席者	<p>(出席者)小池玲子委員長、宮尾昭広副委員長、村瀬裕美委員、小口雄策委員、樋口公男委員、荒井英治郎委員、中澤和夫委員、宮坂正博委員、藤森民雄委員、高見俊樹委員、中原直樹委員、伊東香絵委員、茅野進委員、中村恵子委員、伊藤美保委員、田村方子委員、小林真樹委員、名取功夫委員、太田直行委員、三輪晋一教育長、細野浩一教育次長、小林純子教育総務課長、宮阪透生涯学習課長、柿崎茂スポーツ課長、長田一彦教育総務係長、関沢佳久生涯学習係長、土橋千広スポーツ振興係長、片桐秀樹企画運営係長(計25名)</p> <p>(オブザーバー)玉本広人教育委員、草間良子教育委員、今井みどり教育委員(計3名)</p> <p>(欠席者)茅野純子委員、岩波健一教育長職務代理者(計2名)</p> <p>(傍聴者) 2名 ※別紙傍聴名簿参照</p>
資料	別紙
<p>協議議題(内容)及び会議結果(要旨)</p> <p>1. 開会 (教育総務係長)</p> <p>2. 教育長あいさつ</p> <p>3. 議事(小池委員長)</p> <p>(1)パブリックコメント実施結果について</p> <p>(2)第二次諏訪市教育振興基本計画          諏訪市の教育理念(教育大綱)具体的取組み(基本計画) (最終案)について(説明:教育総務課長)</p> <p>&lt;「諏訪市が目指すべき教育」に係る動画視聴&gt;</p> <p>【実施結果及び最終案に対する主な意見等】</p> <p>○5年と言わず、10年、100年、本当に大きな切り替えを決意された教育長。制度に子どもを合わせるのではなく一人ひとりの子どもに合わせた教育をということを取り上げられ、議会でも話された。心強い。</p> <p>○資料2の5頁一番上、行替えが意味なくされているので、修正されたい。</p> <p>⇒(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ご指摘のとおり修正する。</li> </ul>	

○6 頁。「不登校の児童生徒が活用することを想定し、ICT 機器活用を研究し、環境整備を進めます。」という一文を入れた。これは「活用することを想定し」となっているが、不登校以外の児童生徒にも活用ができるという意味を込め、「活用することも想定し」とすることが可能か。

⇒(事務局)

- ・ICT 教育の推進については、8 頁に一つ項目を設けている。ICT を全体的に活用することはそちらに包含。
- ・資料 2 特別支援教育の③の 5 つ目に「合理的配慮～」の項目がある。そこで特別支援教育については、「ICT 機器活用を研究し」ということであっている。それに対し、パブリックコメントでは、「いじめ問題や不登校支援のほうには ICT がなくていいのか」という質問、意見。それを踏まえて、「特別支援教育の充実」だけではなく、「いじめ問題や不登校支援への取組」にも ICT を活用していこうということで、今回「ICT 機器活用を研究し、整備を進める」と入れている。移動をしたうえで、「活用することを想定し」のままでいかせていただきたい。

○同頁の用語解説「インクルーシブ教育」について。インクルーシブの意味に当たる訳語が入っていない。「包摂」や「包み込む」等。また、「システムを改革するプロセスのこと」と言うと、一般的な解説になるか心配。後で代案を渡したい。

⇒(事務局)

- ・代案をいただき事務局一任で修正をさせていただく。

○同頁 5 番、「子育て支援シート」の語尾。「取組み」。「シートは取組み」というふうに読めてしまう。あくまで支援シートは「道具」、「ツール」に当たるのではないか。検討いただきたい。

⇒(事務局)

- ・代替案のとおり検討、修正する。

○7 頁、現場では、スクールソーシャルワーカーを「SSW の先生」のように言う。(SSW)や、同じ理由で 1 番も(SC)のように括弧書きを検討いただきたい。

⇒(事務局)

- ・用語解説、本文両方について、ご指摘のとおり検討、修正する。

○9 頁「中 1 ギャップ」の用語解説。「文化的なギャップ隔たり」。ギャップと隔たりが続いてあるが、国語的に違和感。「・」や「、」何かを入れたらいかがか。

⇒(事務局)

- ・代替案のとおり検討、修正する。

【計画作成に関わったの感想、今後への期待・要望、子どもたちや諏訪市の教育に対する思い等】

○立派な大綱ができたが、これを実施していくことは大変なことである。市民に対し生きた恩恵が受けられるようになればいい。これを展開するに当たって市の行政は大きな負担になるかもしれないが、ぜひ展開をよろしく願いたい。

○素晴らしい目標が掲げられているが、弱いのは、財源論がないこと。これについては行政や我々も、努力しなければならない。この理想的な計画を少しでも実現していくには、市や学校だけでは今の時代できないことは当たり前。ぜひ委員も含めて、社会的なムーブメントとしてこの計画が動いていけるような体制を一緒に作ればよいと思っている。

○計画策定に携わり、でき上がったものの重さを感じる。この存在があることを学校現場でもきちんと認識をし、これを基に諏訪市の教育が動くことをまず職員で共有しなければならない。

○この基本計画をどのように周知していくか。各学校では 1 年間の運営計画を作成している。その運営計画の最初に、この基本計画を載せ、次にゆめスクールプランの小中一貫教育、各地区の学校教育目標等を掲げ、周知していければ良い。

- 教育大綱や振興基本計画をどう具体化していくか、とても大事。
- 計画は立派だが、これがどのように活用されるか、生かすかが大事。
- この種の計画では宿命であるが、かなり理想的で高い目標が掲げられている。実現に向けて大変だと思う。
- 一つ一つの文言が具体的な姿に結びついていくこと、そして実現していくことを共有することが必要。
- この理念、これからの方向をどのように具現していったらいいかということを考える。
- それぞれのメンバー、部署で共有して、その願い、思いを確認してやっていくことが大事である。
- 教育長自ら主体である子どもたちに語り掛け、子どもたちにも考えてもらうという、映像、スタンスは素晴らしいと思う。
- このような機会に参画し、大変勉強になった。
- 今回計画策定に携わって、行政について学ぶことができたのはとても良かった。
- 委員会を通じ、皆が諏訪市の子どもたち、そして諏訪市の学びのことを考えてくださっていると感じた。
- 計画策定に関して、上位計画がいくつかあるが、これについて何の解説もされていない。市にたくさん計画がある中で、例えば上位計画にありますよと書かれてもどうなのか疑問。
- 教育に関する委員だけでなく、もう少し広い人材を求めて委員会をつくらないといけないのではないか。
- 計画期間が4年であり、数年後には次の作成ということになる。次の策定を見据えた不断のチェック、効果検証をお願いしたい。
- 来館者〇人というような数字だけではなく、実際に何が行われ、何が起きたのか、反応が大事。4年後なり何年後にどのような形で現れたか、どうなったか検証されたい。1回決めたらそれを守るだけでなく、途中修正等も行い、展開していくことも大事である。
- 4月にこども家庭庁がスタートをする。子ども自身を巻き込んだ施策展開を希望する。
- 「学びの和」という言葉はやはり心に響く、残る言葉。「和」に緩やかなつながりを感じ、許容範囲をなるべく広くして、色々なことに対応できるような柔軟的な運用を考えていただきたい。
- どういう姿が「学びの和」なのか考える。授業から学ぶことも大事、また、ある歌手の曲をきっかけに、その歌が流行した当時の歴史を知り、考える子どもたち。これも「つながり続ける 学びの和」ではないか。実は周りにも「学びの和」は、たくさんあるが、私達自身が気付いていないことも。気が付きが大事だと勉強させられた。
- 「学びの和」、これにつながっていこうという意識は大人になっても十分持っていると感じている。
- パブリックコメント1番を見たときに、タレントのさかなくんが以前投稿した記事を思い出す。水槽に30匹位の魚を入れておくと必ず1匹はいじめられてのけ者にされる。いじめられた魚を別の水槽に移しても結局残った魚の中からまたいじめられる魚が出てくる。いじている魚を別の水槽に移せばいいかという、結局またその中からいじめられる魚が出てくる。だけど海ではそんなことはないんだよ。今まで枠にはめよう、はめようとしてきたから、いじめや不登校が出てきているのではと考えた。
- 基本理念にあるこの「皆が一緒に同じペースで同じことを行うことよりも多様な個性や自立した個が尊重されつながり合いながら、対話や議論による新たな価値を生み出していくこと。」これをぜひ、やっていかなくてはいけないと考えさせられた。枠にはめるのではなくて一人ひとりの子とその子らしく力を発揮できるような教育や社会を目指したい。
- 学びというのは、幸せに天寿を全うするまで、生き抜くための学び。オギャーと生まれたときから学びが始まり、天寿を全うするまで学びが続いていく。
- 県立高校として、この計画にどのように関わっていったらいいのか、そんなことを今考えている。諏訪市から様々な声かけがあった際には、学校側としても様々な協力をしていきたい。

- 子どもの抱える問題は多種多様にわたっている。ここ何年か、どんどん変わってきており深刻になってきているのが現実。あゆステでもできることを少しでもやっていきたいと、学習支援や養育支援等、支援の幅を少しずつ少しずつ広げている。これからまた子ども達がニコニコ笑って安全安心な生活が送れるように、陰ながら支えていきたい。
- グレーな子たちがますます見えてくる。LDの子たちは、これから医療からの診断が出るので、何割という時代になってくる。そういう子たちのために、適切な学びの場がいくつかあって、通常の学級だけでなく通級や支援学級、それぞれの押し付け合いにならないようにされたい。
- 不登校の子たちがいる。学校とつながっていないければ、先生方から為す術がないとの声も聞かれる。あゆステがフォローしているが、いずれにしろ義務教育段階から始まってそういう子たちが、18歳で支援が途切れないよう、児から者へのつながりを行政として持ってもらいたい。
- これから、子どもたちはDXの時代になっていく。環境も含めて行政が縦割りではなく、横の連携をしっかりとって、子どもたちを育てていってほしい。
- 蓼科保養学園は心に残っている。支援の必要な家庭に生まれても、蓼科のような経験ができるということは貴重。その形がなくなるにしても研究すると書いた以上は、そういう包括的な支援、子どもの権利を守っていくということをぜひ重く受け止めてやっていただきたい。
- 今までの一斉授業から多様性、多様化。先生方も本当に悩まれると思う。心を病む先生方が、増えないようにと願う。
- 先日、小学校6年生が、諏訪市の2045年問題、高齢化社会が進み人口減少となる、深刻な課題についてすわっチャオで発表した。この課題を学び、調べ、考えて、まとめて外に発信したことで、子どもたちも一生心に残る学びになった。その中で、子どもたちが発信したことに対し、関わった大人、地域の方達が真剣に答えてくれた。真剣に感想を寄せてくれたことがとても大きかった。そのような場所や機会、例えば計画10頁の地域教育「②郷土諏訪への愛着と誇りを育てる取組」というようなことに関係し、このようなネットワークがこれからたくさん出てくればと感じた。
- 上記の発表で、児童が「諏訪市はどうしたらいい？自分たちも諏訪市民の1人、考えよう」と掲げていたことに、感銘を受けた。行政任せであったり、先生任せ、学校任せにしてしまう部分もあるが、諏訪市民、住民の1人として課題解決のために、何ができるか、何をすべきか等、協力をしていかななくてはならない。
- 生きていく以上は人との関わり、みんなと一緒に生きていこう、「心の育み」を大切にしないと社会が崩壊していく。市民みんなが支え合えたらいいと考える。
- ICT教育の推進については、学校教育の中に含まれているが、今後は学校だけでなく、生涯学習にも当然入ってくる。将来的にもっと広がる可能性がある、と感じている。
- 博物館が学びの場、工業に対しても、もう少し幅広く学べるような体制がとれればありがたい。
- パブコメ24番に文化遺産の保存管理の推進という項目。ここに「志賀家についてこのまま朽ち果てていくのか」という意見がある。諏訪市の指定文化財116件程のうち、個人のものが何点かあり、一つが志賀家。個人所有であり、あくまでも管理も個人でやらなければいけない。どうなっていくのか危機的な状態。スポンサーや、ボランティア団体でサポートしないと、時間だけが経ち、朽ちてしまう。
- 美術館には、たくさんの寄贈作品や、収蔵作品がある。書かれているような収蔵庫は、相当手狭である。検討するだけでなく、より進めていただければありがたい。
- 芸術分野は答えが出る教科ではない。刺激を受けたり感銘を受けたり、逆に批判的な意見を言うことが一番できる教科。想像力や、自主性を生む。
- 作品を項目やテーマ別に分け、より活用して市民に開示していく。単なるデータ集ではなく、あるものの中からより現在のテーマ、地域のテーマ、色々なテーマに合わせて掘り起こされたい。

- 図書館が本を読む場所から色々な情報発信の場、本だけでなく、文化としての発表の場になっていくと嬉しい。すわっちゃオだけではなく、たまには、博物館でコンサート等も。色々な活動ができるようになればいい。
- 今まで文化的な活動を支え、協力していた方たちが高齢化している。コロナで活動もできていない。上手くつながり、後継者が育てば、若い方が参加してもらえればと願っている。
- 中学で、バスケットボールの授業を行っている。昨年度は、コロナにより急にネット型のバドミントン、卓球へ変更となり、子どもたちもショックを受けていた。今年は、子どもたちも少し不安を感じながらも、やっとできたバスケットをやめないでほしいと願っている。子どもたちもマスクを取って段々と授業をするようになってきて、コロナ前の姿が戻りつつあることを嬉しく思う。
- 楽しさや成功体験、達成感を味わう中で、体力や運動能力が向上できる授業展開をしていきたい。
- ニュースポーツを振興し、スポーツは楽しいと感じる方を一人でも増やせるよう努力したい。
- スポーツに向かう動機付け、ある本によれば、子どもたちが運動で賢くなる、高齢者が認知症を予防できる、ましてや認知症を改善できるとある。そういった新鮮で重要な知識を、子どもたちや高齢者に市からも伝えていってもらうことが大事。よろしく願いしたい。

#### 4. その他(教育総務係長)

<今後の予定について>

- 基本計画の決定 令和5年3月10日(金) 定例教育委員会
- 教育大綱の決定 令和5年3月14日(火) 諏訪市総合教育会議

#### 5. 閉会(細野教育次長)

以 上